

## 松下幸之助の「自らを育てる」

### 自修自得する

先輩の諸君が日々仕事をしている、そのねき（傍ら）において仕事をするようになる。また手伝いの立場に立って、その人たちのやることを見聞きすることによって、皆さんは知らず識らずその人たちの言動を覚えることになる。そこに自分の生きた心というものがあると、そのいいところをさらに取捨選択するようになる。そしてそこに皆さんの個性にもとづいた一つの創作が生まれる。それが一つの自主性をもって、今度は責任ある地位に立って仕事をするようになる。

そういう心がけや心構えがないと、皆さんにも不平が出てくるし、また皆さんの実力も伸びてこない。ねきにおいて手伝っていくかたわら、物事を自修せねばならん、自得しないといかん。それだけの用意がなければ、私は社員としては成功しないと思う。

1959年（昭和34）「松下幸之助発言集第32巻“新入社員導入教育”」